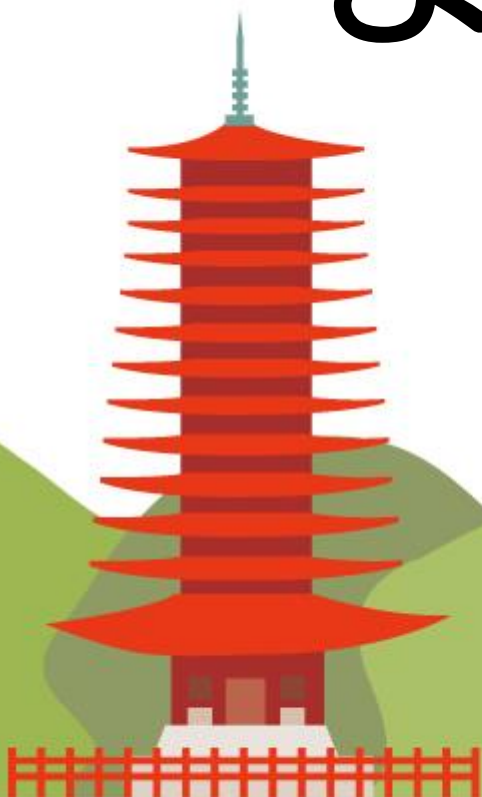


奈良言友会会報

まほろば



創刊号



# 奈良言友会の新たな出発

会長 堀 茂

奈良言友会は、昨年9月に発足してから、月1回の例会をもって、活動してきました。会が発足した頃は「今日は何人参加するだろうか」と不安でしたが、毎回10名以上の参加者があり、ホッとしたものでした。話し合いはいつも大変活発で、終了の時間をオーバーすることもしばしばありました。

今年の2、3月に会合をもち、会則や世話人など組織としての体裁を整えて4月より新たな出発をしました。

奈良言友会は吃音をもつひとの困難や悩みを軽くするために援け合っていこうというのが活動の趣旨です。これからの活動について述べます。

## 1. 例会

引き続き月1回、原則第1日曜日に場所も同じ奈良市ボランティア・インフォメーション・センターで午後1時半から4時半まで行います。

この度は、4月から半年分の例会担当を決めたのですが、当初、担当の引き受け手がないのではないかと心配しましたが、相欠いで手を挙げてくれて、すぐに日程が埋まっていったのは予想外で、みなさんの積極的な意欲を感じました。

例会ではいろいろなテーマで話し合いがもたれます。みなさん長らく吃音で苦労してきた経験の中で積み重ねた多くのノウハウをおもちだと思います。それを互いに提供し合いましょう。年配の人はそのようなノウハウを若い人に伝えてほしいと思います。それぞれ役立つ「気づき」やアイデアを交換していく中で、「どもってでもいいじゃないか」と思えるようになればよいし、吃音をもったまま「どうしたら、ちゃんとやっていけるのか」をみんなで考えていけたらいいと思います。

また、吃音は治らないまでも、軽くしたいと多くの方が思っています。「こういうときはうまくいった」などの体験を伝え合って、それぞれが工夫していきましょう。話し方の工夫や場面を設定した会話の練習などもしていきましょう。

## 2. 広 報

自身の吃音をなんとかしようというのと共に、広く社会にはたらきかけていきましょう。吃音で一人悩んでいるひとに言友会への参加を呼びかけましょう。特に若い人にはITによる広報が有効のようです。メンバーが発信したツイッターを見て来た若い人もありました。また、一般の市民に吃音のことを理解してもらうような広報活動も大切でしょう。

奈良言友会の会報は隔月の発行を目指します。自分の「思い」を文章にするのはなかなかしんどい作業ですが、それは外に向かう力（ちから）を養うでしょう。ふるって投稿していただきたいと思います。

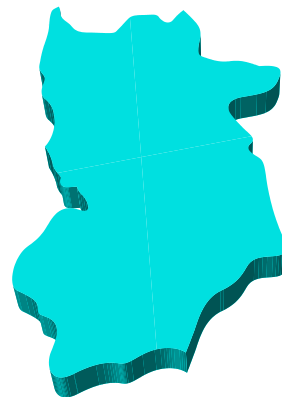
## 3. 子どもの吃音へのアプローチ

奈良言友会では、子どもの吃音にもアプローチしていきます。夏には小学校の言葉の教室の協力をいただきながら、子どもの吃音の「つどい」を計画しています。

## 4. 全言連との連帯

奈良言友会の年会費を3000円（購読会費は2000円）としましたが、これには全国言友会連絡協議会（全言連）の会費が含まれます。奈良言友会は、全言連に加入しています。全言連では今年、検討委員会をつくって吃音への社会的支援の制度をつくるよう政府に働きかけていこうという計画がありますが、そのような活動に参加することもできます。

「翼をください」という歌があります。「大空を翼ひろげて飛んでいきたい」と。そのようなできない事を夢見るよりも、足をしっかり大地につけて「・・・1日1歩。3日で3歩。3歩進んで2歩下がる・・・」「・・・人生はワンツーパーチ、汗かき、ベソかき歩こうよ・・・」（「365歩のマーチ」）と、そんなふうに進んで行こうではありませんか。



# 4月例会の報告

参加者 10名

担当 堀 茂

報告 池島 靖人

## 第1部 コミュニケーション力を高める。

担当者から、長い吃音の体験を踏まえて、「私の反省」として次の2点が話された。

- ① コミュニケーションは現実には、言葉だけでなく、態度、身振り、てぶり、まなざし、表情、その他さまざまなものと一緒になされている。言葉だけをするのではなく、もっと他のものも一緒に使ってすればよかった。
- ② コミュニケーションは、まず相手との気持ちの通い合いがあって、そのうえに言葉のやり取りが成り立つ。長い間、どもるのをひとに見せたくないと思い、防衛的になって、気持ちの通い合いを塞ぐことになっていた。自分のことはさておいて、相手に心をひらき、相手に伝えることを優先させることを心がけたい。

①について。

身振りをつかうことの有用性、動作で調子をとったり、動作に合わせて言葉をいうとうまくいくなどの話がだされた。

私は、言葉以外のものを利用することは大事だが、どうしてもこれを言わないといけないう時もある、その時どうするかを考えていけないといけないと思った

②について。

コミュニケーションの手段は様々であり、言葉だけにとらわれず、人間味のある人柄で好感を持たれるようになりたいと思った。また人からいい風に見られたいから、絶対にどもりたくないという気持ちが今でも強く、それが吃音に結びついているのは自覚している。「自分のことはさておき」という姿勢はとても参考になったので、自分の考えに取り入れていきたい。

---

## 第2部「討論会」 担当 堀 茂

### 1. テーマ 裏口入学を認めるべきか

ある公立大学の合格判定会議。入学試験で、ある受験生の試験の点数が合格ラインに10点及ばなかった。ところで、その受験生の親から、もし合格にしてくれたら1億円の寄付をする

という申し入れがあったことが知らされた。

この受験生を、①合格にすべきか ②不合格にすべきか、を討論する。

※ 討論は、メンバーの意見に関係なく、合格か、不合格かで、2つのグループに分ける、発言する人は挙手して議長の指名があってはじめて発言することができる、などをルールとした。

## 参加者の感想

池島靖人さん

堀さんの「私の反省」より、コミュニケーションの手段は様々であり、言葉だけにとらわれず、人間味のある人柄で好感を持たれるようになりたいと思いました。また人からいい風に見られたいから、絶対にどもらたくないという気持ちが今でも強く、それが吃音に結びついているのは自覚しています。「自分のことはさておき」という姿勢はとても参考になりましたので、自分の考えに取り入れていきたいと思います。

杉本和優さん

討論会はすごくよかったです。楽しく参加させていただきました。相手の話をきちんと聞き、自分の意見をいうというのは、大変有効な練習だと思いました。またこういうのをぜひ計画してください。

松井保典さん

自分を表現する、言葉を出す体験を出席者は積極的に取り組んでいたのが感心した。論じ合うことは素の自分を出すことだから、よい体験にもなる。

三島学さん

コミュニケーションはとてもわかりやすい例会だったですけど、きつおん体験例会とかをしてほしいなと思いました。

青木明大さん

本日は遅れてしまい、申し訳ありませんでした。人の意見を聞いて意見を言うことの難しさを感じました。私が身につけたいと考えている能力でもあり、おもしろかったです。これからも、このような機会に挑戦していきたいです。

庄山 澗さん

堀会長の「私の反省」はとてもよい感想でした。自分も反省すべき点は多々ありました。今後は特に注意します。

稲植英和さん

奈良言友会発足目的達成に向けてグループとして活動したい。

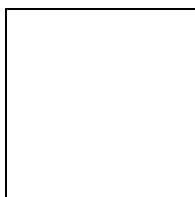
この会がいつまでも続くことを、始めての会として会長よりの検討、前後ともよかったと思う。

辰巳正充さん

討論会はよかったと思います。もっと議題があればと思います。

阪井多津子さん（初参加）

年配の方の体験が聞けた。コミュニケーションのとりかたについて考えたい。



# 吃音について

杉本 和優

私は小学生の頃から吃音者です。当時はさほど吃音に対しての知識や意識がなく、自分から積極的に話しかける明るい性格というのもあり、多くの友人にも恵まれました。

中学生の時に、初めて恥ずかしい体験をしました。それは本の音読です。あの出来事は今でも覚えています。社会の授業での音読での世界最大の都市。その都市の「と」が出てきませんでした。「世界最大の、と」「世界最大の、と」と繰り返し替えては笑いが飛び交い、頭の中が真っ白になりました。それが唯一記憶にある初めて人前で吃った体験だったと思います。それを除いては中学から高校の学生生活は充実していたと思います。

それから専門学校に通い、卒業後は調理師をしていました。社会に出るとというのは楽しみな反面、自分が思い描いていた生活よりも苦痛な日々でした。

社会に出て、思い詰めたり本当に辛い思いをして初めて吃音で悩みました。仕事にも差し支えが出た事も多々ありました。その中でも一番悩んで辛かった出来事が2点ありました。まず1点目は調理師の仕事の中で「伝票まわし」という業務があり、ウェイターから入ったオーダーをシェフに伝え、自分がしきって指示をするというものでした。暇な時は多少のごまかしながらもあまり問題はなかったのですが、店が忙しくなるにつれて大きな声が飛び交い、それに威圧感を感じて次第に声が出なくなる私。先輩方からは「声が小さい。」「聞こえない。」などと指摘され、その末に怒られる。毎日そんなことの繰り返しでした。上下関係も非常に厳しく、職人という独特の世界で私はこの業界に向いていないのではないかと日々を模索しておりました。

2点目は朝礼当番でした。一番下っぱの私がいままで仕切り役で、司会が私の訳ですから当然仕切らなくてはなりません。と言っても私が名前を呼んで、本日も一日宜しくお願いします。と言うだけなので難しい事は一つもありません。ですが、その先輩の名前を呼ぶ事すらままならませんでした。毎日しきりに怒られていたからか誰もが恐く感じていた中で、名前が出てこない。特にかが行が全然ダメでした。終わってからは準備や仕込みがあるので、そんなゆっくりしている場合ではありません。早く！早く！とせかされても、かかかしか出てこず。拳げ句の果てには障害者とも言われる始末でした。それからというものの言葉でのいじめが出るようになり、毎日が苦痛で苦痛で悩んだ行く末に辞める事を決意しました。しかしながら、思い返すとそんな状況でも

3年間も働かせてもらっていたのは支えになってくれていた良き先輩が多少なりともいたからでした。吃音の理解こそありませんでしたが、その存在は大きかったと思います。

引き止められたりしながらも次は自分を高めるという意味で、自ら販売の仕事を選び今に至ります。（自分から辛い道へ行くというのを好む？変な性格なのもありますが笑）

吃音で販売の仕事は正直前職よりも辛いものがあります。まず最初の壁はお客様とのコミュニケーションです。入り立ての頃は本当に吃り吃りで、全然喋れてませんでした。それに仕事も覚えられずスタッフ同士の会話もままならない状況でした。

時が経つにつれて次第にマシにはなっていますが、今現在の職場はまだ入ったばかりで、不慣れなせいか社内でのコミュニケーションがうまくいってません。どこかに吃音を知られたくない気持ちがあるからか必要以上に喋らないからか理由はわかりませんが、陰口を言われることがあり辛いのが現状です。吃りへの理解がないのに真似されたりするのも嫌です。バカにされる事がとても不快です。本当はバカですが、人から見下されるのはとても良い気持ちにはなれません。

そんな事を悩んでいる時に奈良言友会の存在をネットで知り、つい最近ではありますが参加しました。こんな私ですが、今度とも宜しくお願い致します。

## 緊急告知！！

小中学生の吃音者とその家族を対象にした交流会を開催します。

「(仮称)ことばの親子交流会」(下記事項はあくまで予定です。)

日時：平成24年8月4日(土) 13:00 ~ 19:00頃

場所：生駒市立生駒山麓公園

会費：大人 2,000円 子ども 1,000円

内容： 13:00~14:30 自己紹介、ロールプレイング

14:30~16:30 親子に分かれて班別で交流

子ども=フィールドアスレチック

親 =話し合い&相談

17:00~19:00 バーベキュー

19:00頃 終了解散

趣旨：「言葉の教室」の少ない中南和地域を中心に、子ども吃音に対しての理解を深める。交流を通じて吃音は自分だけではないという安心感を持ってもらい、孤立しがちな吃音児童を持つ家庭の繋がりを築く。



## 5月例会の報告

後藤 文造

参加者 16名（新規参加者2名）

### テーマ 子どもの吃音

まず、奈良市内のこたばの教室で吃音児の言語指導にかかわっておられる天羽先生から、こたばの教室での取組を紹介して頂きました。当日は他にも言葉の教室から村上先生にもご参加いただき、吃音児を取りまく現状について話を頂きました。

後半は、それらを基にして、フリートークをして頂きました。自分の子供の頃の体験や、吃音の子供をもつお母さんの話など色々な話が出てきました。みんな同じような思いをされていて、子どもの頃は「自分一人だけ・・・」と思っている子が多いように感じました。また、吃音のお子さんをもつ保護者にとっても吃音をどう捉えるのか悩みも深いように思います。

最後に、奈良言友会として、子どもの吃音に対して何が出来るのか意見交換をしました。奈良言友会という任意団体が出来ることは限られますが、肩肘はらず出来ることから取り組みたいと思います。よろしくお願いします。

### 感想

天羽 郁子：言友会として組織が成立し、会として充実してきた手ごたえを感じました。中心となっていた方々にご苦労をいただきました。ありがとうございました。これからも参加させていただき、多くを学び、子どもたちに返していきたいと思います。

村上 賢司：子どもとの交流会、成人と保護者のつどいを少しずつ進めてください。

庄山 澗：特にありません。会報名「まほろば」良いと思います。

寺田 純子：今回初めての参加で少し緊張しましたが、同じ悩みをもつ人達の交流をもち、とても良い経験をさせてもらいました。皆様、上手にお話されてましたね。

松井 保典：例会の盛り上がりには満足しています。諸問題も語られました。特に子どもの吃音についての意見がどう取り組むかの議論は今後につながっていく問題だなと実感した。

阪井多津子：吃音について話す場に参加することで、自分の吃音との向き合い方を学びたい。

杉本 和優：子供の吃音について知ることが出来たり、自分達が吃音で悩む子供にしてあげられる事など吃音に対して深く考え直す良いきっかけとなりました。

西村 泰宏：ことばの教師の存在を初めて知りました。一度体験してみたいと思いました。

池島 靖人：子ども達の環境は昔と違ってサポートがある事は、うれしく思いました。それによって私達の経験を生かしていけたらいいとも思いました。

山崎 貴浩：皆さんの子どもの頃の苦労話をたくさん聞かせていただきました。共通の経験もありましたが、失礼ながら思わず吹き出してしまう話もあって意外と楽しかったです。

後藤 文造：子どもの吃音について、色々な意見が出て良かった。先生の声がおもしろかった。

堀 茂：私の小学生の時は「ことばの教室」はなく、周囲には吃音の子どもは見当たらなかったもので強い孤立感がありました。担任の先生がよかれと思ってしてくれたことで心が深く傷ついたこともありました。吃音の子どものために、保護者、ことばの教室と協力して取り組んでいけたらと思います。

Y. T：いろいろな吃音者の話が聞けたり、今後の子どもの吃音に対する取組みが知れて良かったです。

S. H：こどもの吃音をテーマとして色々とお話をお聞きして大変参考となりました。今までの吃音体験などを生かして子どもの吃音者や保護者の方の力になればと思いました。



## カミングアウトパートⅠ

山崎 貴浩

吃音を打ち明けるとするのは、非常に微妙な状況でのみ成立すると言える。吃音であることに周りの誰もが気づいている状態では、あえて打ち明ける必要はないからだ。小学校時代は、どもりを隠すことなく話していたので、僕の吃音は周知のことであった。喧嘩したときも最後には「どもり！」という言葉で決着だ。国語の宿題に自由題の作文があったので、「吃音」を主題に書くことにした。悲壮感はなく、頭の中で「野口英世の左手の作文」を思い描いていたのであった。野口清作の作文は級友を感動させ、不自由な左手の手術にまで至らしめ、世界の野口を誕生させたのである。クラスのみみんなを感動させることができれば、「どもり！」という発言を封じることができるかも知れない。僕は、泣きながら書いた（大ウソ）という演出をするためにわざわざ原稿用紙に水をふったり、鉛筆字をにじませたりしたが、肝心の文章が今一つだったのか、そのような計算高い作文が人を感動させるはずもなく、その作文はクラスメートの前で読まれることはなかったのである。結局この打ち明けは、成績付けのために作文を読んだ担任の先生だけで終わってしまった。

次に印象に残っている打ち明け話は、思いを寄せていた女の子に対してのもの。一般的に言って、交際相手が自分の吃音を受け入れてくれるか否かは吃音者にとって本当に切実な問題だろうと思う。19歳の春に車の免許を取り、片思いだった高校時代のクラスメートを初デート・初ドライブに誘った。吃音を打ち明けた場所は、明日香から吉野へ抜ける細い峠道。せわしくハンドルを切り返す忙しさでごまかしながら打ち明けたのである。彼女の反応は「そうだったの。知らなかったわ。」以上。彼女は僕の彼女ではなかったので、この反応はごく普通であると思う。僕には露悪主義の傾向があり、自分の吃音を他人に比較的打ち明けているのだが、大体はこれくらいの反応が相場である。人は、結局自分以外の何者にもなれないのだから、そもそも人の気持ちなんてわかるはずがないのである。わかったように錯覚しているだけでわかっているかどうかは誰にもわからない。この文集の黒い文字が、あなたには僕の赤に見えているかも知れないように。人の障害を気にするほどみんなひまじゃないんだよ。だから自分が人にどう思われているかなんてあまり気にすることはないのだ！ このドライブの最後には、友人から借りてきた車を電柱にぶちあててしまった。彼女ともそれっきりである。

もう一つ思い出に残る打ち明け話は、30歳頃のこと。一緒にボランティア活動をしていた女性から、結婚問題について相談を受けた時だった。彼女は在日韓国人で、日本籍でないことを彼に告白すべきかどうか迷っており、在日であることで受けてきた心の傷を僕に話してくれたのだった。僕はなんて言っているかわからず、「自分も障害者なので、その辺の気持ちはある程度わかるよ。」（ホントは全然わかってなかったと思う。）と言ってしまった。彼女は「その障害ってどもることですか？」とストレートに返してきた。僕が期待していた彼女の答は「えっ、全然気が付きませんでした。」だったのでいささかショックではあった。で、彼女の相談に僕が出したアドバイスは「彼が、今のあなたを愛しているのだったら、今のあなたを形成しているものの中に、在日であることによって受けてきた心の傷、生い立ちが大きく影響しているはずだ。彼がそれを否定するのであれば、それは今のあなた自身をも否定することになる。だからすぐにでも告白すべきだと思う。」今、振り返って思うに、もっと派手なアドバイスであってもよかったのではないかとも思うが、そう思うのは、僕が歳を取ったからだろう。でもこのアドバイスは吃音者にもあてはまるのじゃないかと思う。

## 奈良言友会 これからの活動予定

日付	前半	後半
6/3(日)	戦争と私	ロールプレイング 電話大作戦
	発題者は、戦争末期、国をまもろうと志願した陸軍航空隊で、吃音のために過酷な体験をしました。そして、その体験に屈せず、戦後を生き、今も、地域社会のために尽力されています。その体験に学びます。 担当：稲植 英和	電話を苦手とする人が多いですが、ここでは実際の電話機を使い、いろんな場面を設定して電話での会話に取り組みます。  担当 堀 茂
7/1(日)	統計的吃音考察	プレゼンテーション
	吃音には5倍近い男女差があります。他にも隠された吃音の特徴があるかも知れません。言いにくい「言葉」「場面」など例会参加者の経験を基に吃音を統計的に考察したいと思います。 担当：山崎 貴浩	みなさんに順番に発表(プレゼンテーション)をしてもらいたいと思います。私自身、学生時代とても苦手にしていました。形式などは自由です。7分程度で発表してもらいます。  担当：青木 明大
8/4(土)	(仮称) ことばの親子交流会 13:00~19:00 生駒市立生駒山麓公園	
8/5(日)	狂言にどもりなし	地域活動の中での取り組み
	前半は、中世に生まれ育った楽しいお芝居、「狂言」についてお話しします。後半は、狂言の発声や息づかいを用いながら、せりふの稽古をします。きっとどもることなく言えるはずですよ。 担当：西村 泰宏	長らく吃音で悩んできた発題者ですが、近年は地域の自治会活動に積極的に参加する中でカミングアウトなどの体験から多くの「気づき」や教訓を得ました。それを基に話し合い、役立てたいと思います。担当：辰巳 正充
9/2(日)	就職と吃音。改善の取り組み	話し方の改善
	職場での電話がうまくできず、退職の経験のある発題者の 就職活動、障がい者手帳取得への取り組み、さらに吃音改善の試みを語ってもらい、それをもとに問題解決に向かうよう話します。 担当：池島 靖人	ゆっくり、ゆったりした発声、発語練習をしたあと、その話し方で、自己紹介、3分間スピーチなどを行います。  担当：三嶋 学

※ 例会の場所は、奈良市ボランティアインフォメーションセンター（JR奈良駅西側徒歩2分）です。

### 全国の言友会のイベント等

#### ○ 第26回言友会中部大会2012inいしかわ

日時： 7月7日(土) 13:00 ~ 8日(日) 12:30頃

場所： 金沢ニューグランドホテル(石川県金沢市)

参加費：全日程参加の場合 16,000円(宿泊費、懇親会費、朝食費込み)

問合せ：石川言友会事務局又は金沢大学小林宏明研究室 076-264-5513

#### ○ 第56回中高生吃音の集いサマーキャンプ(全国言友会連絡協議会)

日時： 8月11日(土)~12日(日)

場所： 捜真学院御殿場自然学校

#### ○ 吃音ワークショップ全国大会in京都

日時： 11月23日(金・祝)~25日(日) (全国言友会連絡協議会・京都言友会)

場所： コミュニティ嵯峨野

### 奈良言友会 連絡先

堀 茂 〒636-0915 生駒郡平群町春日丘2-13-15

TEL/Fax0745-45-2857 090-9610-6393 Email: sigeru1030@yahoo.co.jp

奈良言友会HP <http://ameblo.jp/nara-gen-yukai/>